

プレス発表資料（公開実験お知らせ）

平成19年12月19日
独立行政法人防災科学技術研究所

科学技術振興調整費による途上国の住宅地震災害軽減化を目的とした 『地震防災に関するネットワーク型共同研究』 レンガ構造の振動台による破壊実験のご案内

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、平成19年12月27日（木）に、茨城県つくば市の防災科学技術研究所内の大型耐震実験施設で、発展途上国のレンガ構造を対象とした振動台による破壊実験を、三重大学、建築研究所と共同で行います。（詳細別紙参照）。

- 1．実験主体：独立行政法人防災科学技術研究所
国立大学法人三重大学
独立行政法人建築研究所
- 2．日時：
平成19年12月27日（木）13時45分～15時30分
（詳細別紙資料による）
- 3．場所：
独立行政法人 防災科学技術研究所
（〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1）
実験説明 研究交流棟1階 第1セミナー室
実験 大型耐震実験施設
- 4．内容：別紙資料による。
- 5．本件配布先：文部科学記者会、科学記者会、筑波研究学園都市記者会

事前の申し込みは不要です。
御不明な点は下記連絡先までお問い合わせ下さい。

【実験担当研究者】

独立行政法人 防災科学技術研究所
防災システム研究センター
研究参事 箕輪 親宏
TEL 029-851-1611（代表）

【連絡先】

独立行政法人防災科学技術研究所
企画部広報普及課成果普及係 佐竹、山科
電話：029-863-7783
FAX：029-851-1622

科学技術振興調整費による途上国の住宅地震災害軽減化を目的とした 『地震防災に関するネットワーク型共同研究』 レンガ構造の振動台による破壊実験のご案内

防災科学技術研究所は、三重大学、建築研究所と共同で、発展途上国のレンガ構造を対象とした振動台による破壊実験を行います。

本実験は、発展途上国の住宅建築の地震災害の軽減化を目的として、科学技術振興調整費「アジア科学技術協力の戦略的推進」プログラム(平成 18-20 年度)において採択された『地震防災に関するネットワーク型共同研究』(研究代表機関：防災科学技術研究所、参加機関：建築研究所、三重大学、政策研究大学院大学)の平成 19 年度実施項目として行うものです。アジアの途上国では、大地震が発生する度に多くの組積造住宅が倒壊し、多くの人命が失われていることから、組積造住宅の耐震性向上は重要な課題になっています。この国際共同研究には、アジアからインドネシア、パキスタン、ネパール、トルコの大学・研究機関が参加しています。

本実験は、発展途上国の住宅建築の地震災害軽減を目的とし、レンガ建物の地震挙動を把握し、その耐震性能を評価します。特に本実験では、崩れるまで加振を繰り返して倒壊挙動を記録します。また、本実験の参加各国とそのデータを共有することにより、各国の組積造住宅の耐震性技術向上に役立てます。

試験体は、パキスタン産のレンガを用い、パキスタンの山間部の作り方で建てた実大(3m 角、高 3m)の建物です。入力する地震動は、2003 年 12 月 26 日イラン・バム地震においてバム市内で記録された強震記録を基にした波形を用います。この地震では、バム市街のレンガ造住宅の大多数が倒壊し、約 4 万人の人命が失われました。

実験日 : 2007 年 12 月 27 日(木)

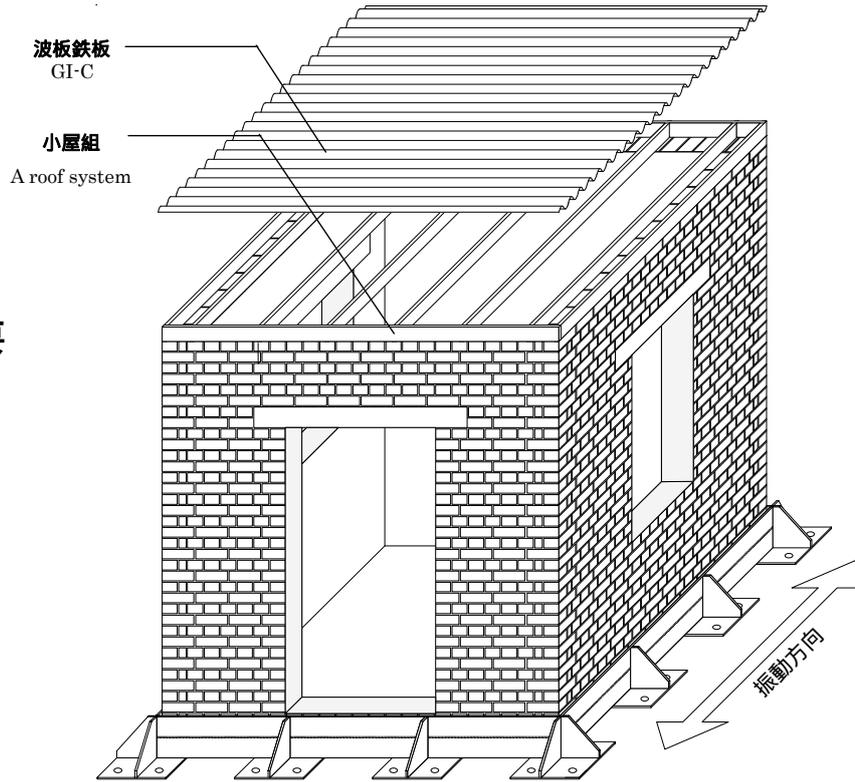
実験説明 : 13 時 45 分から 14 時 15 分(会場 研究交流棟 1 階 第 1 セミナー室)
プロジェクト説明 : 建築研究所 榎府国際協力審議役
発展途上国の状況 : 建築研究所 今井研究支援員
試験体説明 : 三重大学 花里教授
実験説明 : 防災科学技術研究所 箕輪研究参事
(大型耐震実験施設に 徒歩にて 移動)

実験開始 : 14 時 30 分

実験終了 : 15 時 30 分

連絡先 : 箕輪 親宏 防災科学技術研究所防災システム研究センター研究参事
minowa@bosai.go.jp

試験体概要



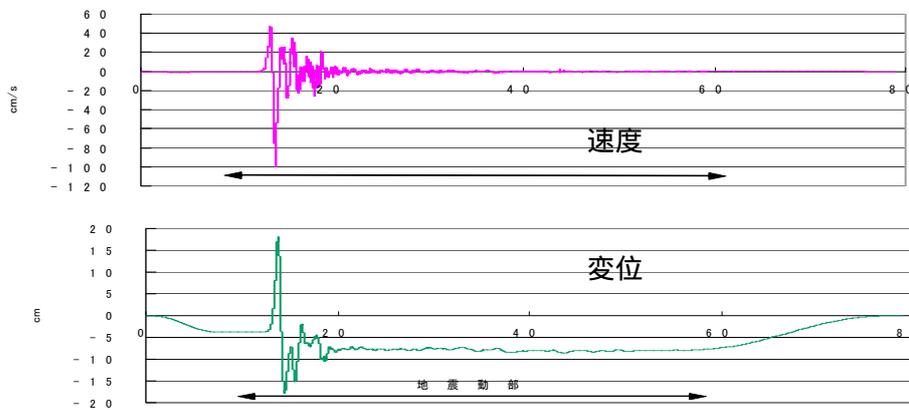
試験体鳥瞰図（東正面）



パキスタン北部で建てられているレンガ造住宅



建設中の試験体



実験に用いる2003年イラン・バム地震波の速度(桃色)と変位(緑色)の形